

ピースツーリズム推進懇談会（第4回）

平成29年（2017年）10月31日

目次

第3回懇談会における意見を踏まえた「目指す姿の方向性」と「今後の検討の方向性」について

1 「目指す姿の方向性」(案)	3
2 「今後の検討の方向性」(案)	4

ヒアリング調査実施状況について	5
-----------------	---

具体的な検討内容について

1 情報発信について	
■懇談会意見及びヒアリング調査での意見	
▷伝える内容	6
▷発信方法	9
▷スマートフォン等を活用した方法(案)	11
2 丁寧な案内を提供する環境づくり(ルート設定等)について	
■懇談会意見及びヒアリング調査での意見	
▷ルート設定にあたっての考え方	13
▷平和に関連する場所	15
▷ルート設定にあたっての配慮すべき事項	16
▷ルート案について	17
▷ルート案の現地調査について(案)	18
3 迎える市民の積極的な関与について	
■懇談会意見及びヒアリング調査での意見	
▷迎える際の対応	19
▷関与のあり方	20

ピースツーリズム推進に際しての配慮事項や対応が必要な事項	22
------------------------------	----

第4回ピースツーリズム推進懇談会の意見交換テーマ	25
--------------------------	----

次回懇談会の日程	26
----------	----

第3回懇談会における意見を踏まえた「目指す姿の方向性」と「今後の検討の方向性」について

1 「目指す姿の方向性」(案)

(第3回懇談会での意見)

- ・被爆の実相は、被爆前からの歴史・文化、原爆による破壊とその後の市民の苦難、市民のたゆまない努力による復興などを通して触れるものである。
- ・このような状況を体感することにより、平和への思いは共有できるものである。来訪者の中には悲惨な体験を持つ者もいるし、来訪者が帰国後、自分達の悲惨な体験を二度と繰り返さないためにはどのような形で平和を構築していくことができるのか考える場としたい。このような施策を通して平和な世界をつくることにつなげたい。
- ・平和とは何かについて、来訪者だけでなく、市民も共に考える場を作っていくことが必要である。

▷国内外の来訪者が、広島の、

・被爆前からの歴史・文化や市民生活

・原爆による破壊とその後の苦難

・復興に向けた市民のたゆまない努力によって築かれた今の姿

に触れ、思いを馳せることができるような、丁寧な案内を提供していく。

▷これにより、来訪者とこれを迎える市民の双方が平和とは何かを考え、共感し、平和への思いを共有していく。

▷さらには、来訪者がその後の日々の生活の中で、核兵器廃絶・世界恒久平和の実現に向けた行動を起こすことへの動機付けに繋げる。そのために、来訪者が広島に関する情報をしっかりと受けとめ、考えられるよう、市民が協力していくピースツーリズムを推進していく。

2 今後の検討の方向性（案）

（第3回懇談会での意見）

- ・情報発信にあたっては、リアルなものを大事にしないといけない。

情報発信について

▷まずは、外国人旅行者、修学旅行生を主な対象として、被爆の実相を伝え、共に考え、平和への思いを共有してもらおう。また、将来、リアルな視点で発信を行うことを念頭に置きながら、まずは、バーチャルによる効果的な発信内容・方法を検討する。

丁寧な案内を提供する環境づくり（ルート設定等）について

▷広島への理解を深めてもらうことを基本に置き、被爆前からの歴史・文化や復興してきた足跡なども理解できる場所を巡るルートを検討する。

▷その際、関連の場所を巡るだけでなく、平和について考えることができる場、休息の場なども含め、来訪者に広島として伝えたいテーマを感じることができ、かつ、来訪者が巡りやすいルートを検討する。


▷ルートの設定にあたっては、1つのルートに限らず、伝えたいテーマ、地理的な範囲、移動手段等を考慮した複数のルートを検討する。

迎える市民の積極的な関与について

▷スマートフォン等の情報端末により、ルート案内や施設解説をするのみならず、市民と触れ合いながら巡る方策を検討する。

ヒアリング調査実施状況について

第2回懇談会以降、ピースツーリズム推進事業に資する意見や提案などを集約するための、ヒアリング調査を実施中。

( : 調査実施時期)

調査対象者等	8月		9月			10月			11月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
外国人在住者					-	-	-		-	-	-
ゲストハウス等					-	-	-		-	-	-
平和・原爆関係の団体等	-				-	-	-		-	-	-
行政機関等					-	-	-		-	-	-
地元関係団体等					-	-	-		-		
専門家・有識者等	-	-									
観光関係・旅行会社等	-	-									

第3回ピースツーリズム推進懇談会

第4回ピースツーリズム推進懇談会

第4回懇談会時点でのヒアリング調査実施状況（調査対象40名のうち22名実施）

外国人在住者1名、ゲストハウス等2名、平和・原爆関係の団体等6名、行政機関等5名
 地元関係団体等5名、専門家・有識者等2名、観光関係・旅行会社等1名

具体的な検討内容について

1 情報発信について

■ 懇談会意見及びヒアリング調査での意見

▷ 伝える内容

- ・訪れた場所における被爆の実相のみならず、被爆前の歴史、被爆後から復興に向けて人々が取り組んできた様子も伝える。
- ・来訪者のことを知り、来訪者の視点に立って情報をきめ細やかに伝える。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・被爆当時市内に在住していた外国人も被爆したエピソードも加える。 ・「被爆体験」を原点とし、こんな悲惨な体験を二度と起こしてはいけないということを国内外の来訪者に伝える。 ・夜の過ごし方を加えることにより、来訪者の滞在時間を延長する。 ・廃墟の中で車を引いてパンを売ったところから始まるアンデルセンや、広銀、広電など、企業の歴史と精神を伝える。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・平和首長会議の取組をより力強いものにして、平和記念資料館を訪れる来訪者に伝える。 ・広島から海外へ移住した人達から、戦後の広島への支援があったことを伝える。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者はそれぞれの平和観を持っている。世界の違う平和のイメージを持っている人と、痛みや苦難を共有し、それを通して最終的に平和をつくることにつなげる。 ・相手のことを知り、相手の立場を踏まえて、伝え方を考える。 ・なぜ折り鶴が広島を象徴しているかなど、広島ではあたり前のことでも来訪者は知らないことがあるので、来訪者の視点で考えて情報を発信する。 ・情報発信する際、それに関連する情報もたくさん見られるようにする。 ・ホロコーストセンターが、ホロコーストの体験だけではなく、広島・長崎や、ナミビア、ルワンダの虐殺についても考え、情報伝達している姿勢を学ぶ。 ・佐々木禎子などにまつわる千羽鶴の話伝える。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
原爆ドームの保存までの経緯や、原爆の子の像の建立の経緯などの情報を広める。	広島YMCA 中奥事務局長
原爆によって、いかに不条理に命が奪われたかが分かるような伝え方をする。	ハチドリ舎 安彦店主
原爆だけでなく、世界の戦争など、色々な切り口から情報が得られるような方策も検討する。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表
広島は世界を見る窓、世界平和を国際的に考えることのできる平和拠点になるべきである。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表 広島県平和推進PT 下崎課長
広島城の再建は、復興のシンボルとして市民の誇りであった。広島城を、武家文化や城郭建築の視点だけではなく、戦前・戦後のことや、関わった人々の歴史の事実を伝承してゆく場所としていく。	広島城 秋政主任学芸員
人類史上最初の被爆地であるという実態を学ぶとともに、原爆投下の直前まで市民の暮らしがあったことを知らせる。	広島市郷土資料館 村上学芸員
被爆の惨状を伝えるのはもちろん、世界平和の創造へ向けた未来への取り組みが必要である。具体的には、文学や音楽などを振興させ“平和文化事業の交流ができる街”にする。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
「被爆体験を伝える都市」から「平和文化のモデルとなる都市」へ移行する時期にきている。アートを用いて平和と全ての人々の幸福に力を注ぐ都市として発信する。	Peace Culture Village スティーブン・リーパー代表理事
<ul style="list-style-type: none"> 核兵器の脅威、戦争による市民の被害の実相、復興、そして現在の被爆者の苦悩等の全てを伝える。 そこにある被爆建物等のみに意識を向け過ぎないこと。広島は街全体が被害の場所であり、様々な道路やスポットに被爆者らが伝え続けてきた被爆体験の背景があるということも伝えていくべきである。 	Peace Porter Project 保田代表
過去の实相を伝えるばかりでは、若い人には昔のこととして伝わってしまう。平和について自分とつなげて考えるような現代的な視点も加える。	これからの学びネットワーク 掘江代表
昔の記憶を守りつつ、未来へ向けた平和への文化的交流などを加える。	国連訓練調査研究所 広島事務所 隈元所長

(ヒアリング調査 続き)

意見	発言者
<ul style="list-style-type: none"> ・核兵器の恐ろしさを伝えることが広島役割である。これを、インバウンド等の来訪者需要の増大や、これらのニーズにどうつなげるのかの検討が必要である。 ・短時間の滞在でもノーモアヒロシマの思いを持ってもらえればよい、来訪者数の増減には一喜一憂しないという考え方もある。 	<p>中国新聞社平和メディアセンター 岩崎センター長</p>
<p>ネットでもたどりつかない情報を収集し、発信していく。</p>	<p>広島青年会議所市民パワー躍動委員会 田中委員長</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人も原爆により亡くなっているが、そのような事柄が資料館の展示にはない。例えば、当時捕虜がいた場所はどこかなど、日本人以外も亡くなった人がたくさんいたことを伝えると、外国人にも身近に感じ、より関心を持って見てもらうことができる。 ・市内を歩くとき、ここが爆心地からどのくらいの距離にあるのか、理解できるような情報がほしい。 ・第二次世界大戦では、海外でも悲惨な状況があったので、広島がどれだけ悲惨だったということばかり説明しても、外国人と思いを共有できない。 ・広島の復興の話はキレイ過ぎる。復興がどれだけ大変だったか、復興の中でどんな問題があったかも伝えたほうがよい。見事に復興したという話では、広島の被害は大したことがなかった、原爆を落としても良いということになってしまう。 	<p>広島大学総合科学研究科 フंक・カロリン教授及びゼミ生</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市がどのように平和のための取組をしてきているのかを伝える。 ・被爆後の壊滅状態からどのように中四国の産業都市として発展していったのか、復興についてのポジティブな内容での説明があるとよい。それに関連した施設や企業、工場の見学ができると、ストーリーが出来上がる。 	<p>JTBグローバルマーケティング & トラベル 訪日教育旅行担当</p>

▷ 発信方法

- ・来訪者の多様な興味・関心に応じた情報提供ができるようにする。
- ・来訪者が分かりやすいよう、情報への到達のしやすさ、イメージのしやすさを追求する。
⇒これらを実現するために、まずは、テーマ性を有したバーチャル面での発信方法として、スマートフォン等を活用した方法から着手する。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・御幸通を含めた郷土資料館、広島城、水道資料館、江波山気象館などの職員が持つ情報を伝える。 ・被爆建物を見るだけではなく、そこでは被爆時までどんな営みをし、8月6日に何が起こったのか、イメージできるコンテンツの作り方、説明の仕方が必要である。 ・映像でその過程を見られるようにする。 ・そこに行けば伝えたい内容が理解できるような説明板を設ける。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・GET HIROSHIMAの被爆樹木の記載を活用して地図に落とし込んでいく。 ・慰霊碑はまとめてマッピングするなど、情報の出し方を工夫する。 ・ある関心事を来訪者が選ぶとその人の要望に応じた情報が出てくるようなシステムを作る。 ・そのエリアの痕跡をとどめたもの、人の行いに関するもの、まつわるストーリーに関するものなど、一つの物事・場所でも色々なインデックスを付けることが出来るため、たくさん付けて選択できるようにする。 ・被爆樹木や被爆建物について、地図に落とし込んで、グーグルマッピング等によりそこに行き着くことができるようにする。 ・テーマ性を持ったバーチャルルートを作る。来訪者の関心にあわせた複数のコースを提示するなど、1枚の平面の地図に落とし込むのではなく、立体的に考える。 ・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みや、情報提供を行う。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者が選べる選択肢を複数用意しておく。 ・来訪者に対して、今回のスケジュールでは巡るのは難しい場所は、次回の再訪時に役立つようなルートを示す。 ・広島に来訪してからルートを知るのではなく、パンフレットやインターネットなどを通じて事前に知ることができるような方法も考える。 ・市内の観光案内所でルートを紹介する。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
バーチャルの世界では戦争の本当の恐怖は伝えられない。遺品や被爆者など実際のもので出合わせ、特に子どもたちの繊細な気持ちや感動、感受性、想像力を呼び起こす。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表
ツーリズムで感じたこと、考えたことを発信する場をつくる。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表 ハチドリ舎 安彦店主
その場所に行けば、そこで起こったストーリーを音声で聞くことができる仕組みをつくる。	ハチドリ舎 安彦店主
例えば集約サイトをつくるなど、来訪者に分かりやすいように情報を一本化する。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
「伝える」動きだけでなく、「伝わるような環境」をつくる。行政側が提示するだけでなく、来訪者自身が探したり選んだりできるきっかけづくりを行う。	88ハウス広島 桃田オーナー
平和を愛する人びとを世界中から集めて巨大なピースフェスティバルを川を舞台に実施する。	Peace Culture Village スティーブン・リーパー代表理事
8月6日に向けて「平和」への意識は高まるが、それは一時的である。継続的に「平和」について考えられる場所を設ける。	広島ゲストハウス-縁- 佐藤取締役
戦争をしている国々の様子について、来訪者(子ども)に身近に捉えてもらう工夫をする。	これからの学びネットワーク 掘江代表
SNSや携帯端末での情報発信や、ウェブ上のポータルサイトを構築することが有効である。	セトラひろしま 若狭代表
時間の経過とともに、伝えたいことが伝わりにくくなる。次世代にどのようにしたら伝わるか、現代の彼らをとりまく環境や未来を見据えた方法にピントをあわす必要がある。例えば、バーチャルな映像やプロジェクションマッピングにより可視化するなど、伝わるための手段を考えるべき。	広島観光コンベンションビューロー 佐伯 課長
外国人には、文章表現に加えて、写真や動画配信を使用する方が見やすい。	JTBグローバルマーケティング&トラベル 訪日教育旅行担当

▷ スマートフォン等を活用した方法（案）

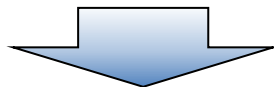
これまでの懇談会意見の整理

①伝える内容

- 訪れた場所の被爆の実相のみならず、被爆前の歴史、被爆後から復興に向け人々が取り組んだ内容を伝える。
（例示）
- ・ある場所などについて情報発信する場合には、それに関連する情報も合わせて見られるようにする。

②発信方法

- ・来訪者の多様な興味・関心に応じた情報を提供する。
- ・来訪者が分かりやすいよう、情報への到達のしやすさ、イメージのしやすさを追求する。
（例示）
- ・ある関心事を来訪者が選ぶとその人の要望の応じた情報が出てくる。
- ・来訪者が選べる選択肢をたくさん用意する。
- ・地図に落とし込んで、グーグルマッピング等によりそこに行き着くことができる。



スマートフォン等による情報発信方法についての基本的な考え方

- ・訪れた場所の被爆の実相といった中心情報に併せて、関連する情報も併せて発信する。
- ・来訪者の興味、関心及びニーズに応じて、自由にルートや目的地を選択できる。
- ・ひと目でルート、目的地及び自分の位置などが把握でき、必要とする情報までの操作が容易にイメージできる画面の内容とする。
- ・来訪者が必要とする情報へ簡単に到達できる。

スマートフォン等による情報発信方法の概要(案)

(1) 基本的な機能

- ・エリア、時間、予算など来訪者のニーズに応じた複数の項目を選択し、推奨ルートやルートの概要情報を表示
- ・全体の地図が表示され、現在地と所要時間を表示
- ・目的地の情報のほか、様々な関連情報を表示
- ・画面を見ただけで、必要な情報が画面のどこにあり、どのように操作したらよいかが一目で分かる画面構成

(2) 発信する情報

- ・訪れた場所、被爆前の歴史、被爆の実相、被爆後の復興の状況等
- ・被爆建物、被爆樹木、慰霊碑などの平和関連施設の情報
- ・複数のルート
- ・禎子さんの千羽鶴など関連する情報
ほか

(3) 画面イメージ

例：「被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」の起点となる「原爆ドーム」



● エリアや時間などの複数の項目の中から希望の内容を選択

● 全体のルートとルート概要をまとめて表示

● 順路と現在地を表示

● 現在地の中心情報のほか、写真や動画、その他の関連情報を表示

※画面はイメージで開発中のものではない。

2 丁寧な案内を提供する環境づくり（ルート設定等）について

■ 懇談会意見及びヒアリング調査での意見

▷ ルート設定にあたっての考え方

- ・来訪者が関心のあること(被爆の実相や被爆前からの歴史・文化、復興してきた足跡)や、滞在日数等の旅行条件に合わせて選択できるように、複数のテーマを設定する。
- ・来訪者が考えることができるよう、またニーズに応じて選択できるように考慮する。
- ・また、来訪者が、ルートの途中でやめたり、ルートの一部を変更できるなど、自由なルートとする。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者には自分の足で歩くのは難しい。市内循環バス「めいぷる一歩」を使用して巡る。 ・水を身近に感じることができる川や海のそばで、また緑の中で、自分の思いを解き放ち、座って静かに考える場を設ける。 ・色々な観点から来広者のニーズに対応するため、自然、博物館、記念碑、アクティビティなど、自由に選択ができるような工夫をする。 ・いくつかのエリアがあり、エリアとエリアの間を線で結ぶというイメージでいく。 ・広島に住んでいる人も意外と気付いていないところを気付かせる切り口を提示する。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ性を持ったバーチャルルートを作る。来訪者の関心にあわせた複数のコースを提示するなど、1枚の平面の地図に落とし込むのではなく、立体的に考える。【再掲】 ・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みや、情報提供を行う。【再掲】 ・復興してきた広島の足跡を実際に迎えるようなストーリーをつくる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設について、原爆による被災状況だけでなく、歴史など様々な情報を網羅的に示し、そこに行くだけで色々なことが分かるようにする。 ・対面で、来訪者のニーズ、時間、予算等にあわせて、個別にルートを提案する。 ・途中から始めても、途中でやめてもよいことを念頭に置き、始点と終点を決めない循環型のコースにする。 ・各ルート案に重複がないように考慮する。 ・自由に組み立てができるオプションを示す。 ・被爆した方が避難した経路を歩くなど、人を軸にしたルートを設定する。 ・無限大マークのような形のルートにし、片方の輪だけを巡る場合や、両方を巡る場合など、来訪者が選択できるようにする。 ・佐々木禎子のストーリーをめぐる。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
被爆した場所から安全と思われる場所へ逃げて行ったという証言をもとにした体験ができるようなコースを設ける。	ハチドリ舎 安彦店主
皆実・宇品地区には、糧秣支廠、被服支廠、兵器支廠などが点在しており、郷土資料館をそれらを巡るための拠点とする。	広島市郷土資料館 村上学芸員
被服支廠に係ることについては協力できる。	広島県平和推進PT 下崎課長
こちらがルートを縛るよりも来訪者自身が数あるコンテンツの中から自由に選択しルート化できるように、たくさんのコンテンツを提供する。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
何を繋ぐのかという選定は重要である。被爆建物の保存等も課題の中、解体の可能性のあるものには考慮する。	Peace Porter Project 保田代表
観光客は時間に限りがあるため、短縮コースが必要。	中国新聞社平和メディアセンター 岩崎センター長
本通商店街は商業だけでなく、古くの広島を街を知る上で重要なポイントになる地点、戦争の遺跡もある。	セトラひろしま 若狭代表
史跡等ばかりでなく、広島を地理的特徴であり美しさでもある川辺の魅力も伝える。ぶらりと歩ける平和で美しい場所があると、広島に対する考え方を深めることができる。	ヒロシマピースボランティアガイド 橘代表
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人について、事前に原爆について学ぶプログラムを受けているか、そうでないかによって、ツアーで巡る場所は変わってくる。例えば、原爆ドームしか知らない人には、他の被爆建造物の意味は分からないであろう。 ・単に気持ちが重くなるツアー内容ではなく、戦争当時や戦後の人達に起こった物語など、感動できる内容のものを伝える。 ・移動する間に、事前に次の訪問場所のガイドをする。 	広島大学総合科学研究科 フランク・カロリン教授及びゼミ生

▷ **平和に関連する場所**

別紙1のとおり (52箇所)

【第3回懇談会までの報道を見た各施設からの情報提供】

広島市青少年センター	<ul style="list-style-type: none">・青少年センターの前には、①爆心地から約370mに位置していた元広島護国神社の鳥居の台座、②北東に元中津宮の被爆した「神額」が埋め込まれた神社、③西側の旧太田川河岸堤防には被爆した柳の木がある。・いずれも爆心地から400m以内の貴重な資料群で、徒歩や自転車で巡回できる。
饒津神社	<ul style="list-style-type: none">・手水鉢のほかにも、石畳や松の切り株など被爆の痕跡を残すものがある。・平成31年の浅野長晟入城400年の記念事業として、明治期の松並木の再現や遊歩道の整備などを実施する計画がある。・被爆前の広島歴史・文化にも触れることができる場としたい。

▷ ルート設定にあたっての配慮すべき事項

来訪者が巡りたいポイントをおさえて快適に周遊できるよう環境等の整備を行う。

(懇談会意見)

	意見
第1回	・平和に関する取組は、「被爆体験」を原点とする。
第3回	・平和関連施設だけでなく飲食店の情報なども紹介し、今とのつながりを感じられるものとする。 ・ルート上の代表的な場所を回ってもらい。他はバーチャルなもので後ほど情報を調べられるようにする。 ・ルートから外れたところについても、どのようにそこに到達できるか情報提供する。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
広島へは、被爆体験を聞く人ばかりでなく来訪者たちも自分の心を癒したいと思って来る人もいる。市民は来訪者の聞き手となることも必要である。	平和のためのヒロシマ 通訳者グループ 小倉代表
平和記念資料館は、原爆の拠点施設としてもっと大きな体裁を整えたい。また、レストハウスやおもてなしの空間を整える必要がある。平和記念公園をより居心地の良い場所にすべきである。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
来訪者は、広島に来ることがきっかけで、自分にとっての「平和」を考えたいと思っている。	88ハウス広島 桃田オーナー
被爆に関する建物は分散しているため、設定するルート外の他の重要な場所を巡ってもらう機会を逃さないようにする。	Peace Porter Project 保田代表
交通機関を自由に乗り降りできる一日乗車券を提示すると、施設に無料で入れるようにする。	広島観光コンベンション ビューロー 佐伯 課長
視覚障害者にはしっかりした音声情報で、聴覚障害者には目で見える情報に触れられるようにする。	広島市身体障害者福祉団 体連合会 岡下事務局長

▷ ルート案について（別紙 2 - 1 ~ 2 - 3）

第3回懇談会での下記の意見を踏まえ、各ルート案を修正した。

- ・途中から始めてもよいし、途中でやめてもよいことを念頭に置き、始点と終点を決めない循環型のコースにする。
- ・無限大マークのような形のルートにし、片方の輪だけを巡る場合や、両方を巡る場合など、来訪者が選択できるようにする。

- ① 徒歩と自転車（ピーすくる）による被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート
- ② めいふる～ふと徒歩による被爆前後の文化・文学を巡るルート
- ③ 徒歩と自転車（ピーすくる）による市民生活の復興を巡るルート

▷ ルート案の現地調査について（案）

第3回懇談会で提案のあったルート案の現地調査を、各委員により実施する。

ルート	経路	調査時期	備考
「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」(徒歩ルート)	(原爆ドーム集合) 原爆ドーム→本川小学校平和資料館→平和記念公園(旧慈仙寺墓石、レストハウス)→旧日本銀行広島支店→袋町小学校平和資料館	11月6日～17日 (別途事務局から日程調整)	比治山では、「②被爆前後の文化・文学を巡るルート」の比治山部分もあわせて調査
「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」、及び「③市民生活の復興を巡るルート」(自転車ルート)	(市役所集合) 広島旧理学部校舎→広島市郷土資料館→旧広島陸軍被服支廠→シダレヤナギ(鶴見橋東詰) →比治山(平和の丘) →マツダスタジアム→猿猴橋		
「②被爆前・後の文化・文学を巡るルート」のうち、前半部分(めいぷる～ぷルート)	(広島駅集合) 広島県立美術館→縮景園→栗原貞子詩碑→(めいぷる～ぷ)→広島城→ひろしま美術館→映像文化ライブラリー→エドモンド・ブランデン詩碑	11月20日～30日 (別途事務局から日程調整)	
「③市民生活の復興を巡るルート」のうちの一部(徒歩ルート)	(旧広島市民球場跡地集合) 旧広島市民球場跡地(元カープ本拠地)→旧西国街道(本通)→広島アンデルセン→お好み村→世界平和記念聖堂→福屋八丁堀本店		

3 迎える市民の積極的な関与について

■ 懇談会意見及びヒアリング調査での意見

▷ 迎える際の対応

- ・市民や、飲食店等の来訪者と接する人達が説明、案内等ができる環境を作る。
- ・来訪者が、広島が平和を希求する街であると実感できるような施策を展開する。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人一人が自分の言葉で広島を語れる環境をつくるのが大事である。 ・AR等によって説明するよりも、市民の言葉で説明することを検討する。 ・シーズンに入ると、ボランティアガイドや平和記念資料館のピースボランティアといった方々の確保が難しい。例えば、ボランティアガイド受付の窓口を一本化することが、温かく迎えることにつながる。 ・温かくおもてなしをするような意思を持った人には、例えば、意思表示のできるようなバッジを作る。来訪者がこのバッジをつけた市民に声をかけやすいマナーを徹底させる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・対面で、来訪者のニーズ、時間、予算等にあわせて、個別にルートを提案するとともに、その他のお薦めルートを示して、再来訪を呼びかける。 ・設定したルートを一緒に歩く人を募る。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
被爆者に会って体験を聞く機会を設ける。	広島YMCA 中奥事務局長
来訪者が集う飲食店等のような場所を営んでいる人達が、ヒロシマについて質問されたら答えられるようにしておく。	ハチドリ舎 安彦店主
障害のある外国人に向けた多言語でのバリアフリー情報の提供が必要である。	JTBグローバルマーケティング & トラベル 訪日教育旅行担当

▷ **関与のあり方**

・市民が来訪者と関与・交流できる場の設置とともに、そのあり方を検討する(例:関与する市民の交通費などの費用負担等)

(懇談会意見)

意見	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の関心のある方々が実施する特別な活動としての平和ではなく、市民自らが案内役になるとか、自分たちでツアールートを設定できるなど、広島に住んでいる人達も何らかの形で関与し続ける余地を残せるとよい。 ・人とのつながりは必要だが、広島で、例えば街角で出会った来訪者に良い情報を教えたりする人達を育成し得るのか、そういう人達がいるのかということも、もっと考える必要がある。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・「外国人のためのおもてなし講座」・トラベルパルインターナショナルの状況をフォローする。 ・めいぷる～ぷを市民が気軽に使えるようになれば、バスの中が市民と外国人来訪者との交流の場になる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店等の民間事業者を対象とした研修プログラムをつくる。研修を受けた人がいる場所かどうかその旨を表示をする。 ・手入れが行き届かない慰霊碑について、地域の子も達が整備することにより、被爆の惨状などについて学ぶ。 ・ホームステイの制度について、子どもがいる若い家族に登録を呼びかける。 ・ピースボランティアや被爆体験伝承者に協力を呼びかける。 ・ボランティアが活動する場合、ボランティアにとっても学びにつながるなど、来訪者とボランティアの両方に利点のある方策を検討する。 ・ピースツーリズムは、来訪者にとっては平和をテーマとした観光であるが、迎える市民にとっては平和の学びにもなり得る。観光の対として、教育、人材育成を意識していくとよいのではないか。 ・ボランティアのスキルアップのための取組を行う。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が来訪者や研修生のホストファミリーとなることができる制度をつくる。 ・民間レベルで交流し、市民を知ることができるような場をつくる。 ・広島市民総ボランティア計画(市民が街角で外国人をおもてなしできるような仕組み)や平和ボランティア養成講座等を行う。 ・「見ること、知ること、会うこと、新しい自分になること」というようなわかりやすいキャッチフレーズ(英語版も)をつくり、市民を巻き込んだ動きをつくる。 	<p>広島YMCA 中奥事務局長</p>
<p>来た人同士が話をできる場をつくる必要がある。そしてその人同士をつなぐような人が必要である。</p>	<p>平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表</p>
<p>広島在住の学生と来訪者が議論をしてみる機会があるとよい。</p>	<p>これからの学びネットワーク 掘江代表</p>
<p>広島城のガイドの育成にあたって、学校教育現場において、当時の軍隊組織に関する内容が省かれているため、ガイドの中でも不十分な情報を発信することがあるので、ガイド教育が必要である。</p>	<p>広島城 秋政主任学芸員</p>
<p>来訪した時に、ガイドを見つけてそこで申し込めるようなガイドの常駐体制を作る。</p>	<p>広島市観光ボランティアガイド協会 米田氏</p>
<p>海外からの教育旅行について、同年代の学生同士で学習できるような取組がよい。</p>	<p>JTBグローバルマーケティング&トラベル 訪日教育旅行担当</p>

ピースツーリズム推進に際しての配慮事項や対応が必要な事項

■ 行政が所管する施設等での配慮・対応

各施設等を所管する関係部局と、本懇談会の意見交換内容を共有し、検討を進める。

懇談会意見	
市の関係部局	被爆の実相の情報発信のあり方を議論する。平和記念資料館、袋町小学校、本川小学校など。
	ぴーすくるの利用方法を分かりやすくする。
	比治山の市街地が一望できる展望台を早急に整備する。(樹木によって遮られ市街地が見えない)
	現代美術館の発信力を高める。また、現代美術に特化した事業だけではなく、市の施設として、多くの市民に関心を持たれるような事業も企画していく。
	文化・芸術により平和を希求するなど、文化事業を通して平和へのメッセージを受発信する。
	廣大旧理学部は草木は伸び放題で、建物はガラスが壊れていて廃墟となっている。維持管理を徹底するとともに、早急に整備方針を決定する。
	市立高校が行っている平和事業をまとめて発信する。
	観光ホームページ、平和記念資料館ホームページ、広島市ホームページを使いやすくする工夫がいる。
	めいふる～ぷは「二葉の里歴史の散歩道」の一部を通行しているが、道路を整備することにより通行距離を伸ばす。
	劣化した説明板の補修、見えにくい説明板を改善するとともに、必要に応じて増設する。
政他機の関行	外国人に分かりにくい歩車分離式信号への対応が必要である(歩車分離式の必要性の議論など)。
	旧広島陸軍被服支廠は保存と活用内容を早急に検討する必要がある。

■ 民間事業者による配慮・対応

各関係事業者と、どのように対応できるか、協議を進める。

懇談会意見
おりづるタワーなどの民間関係者との意見交換の場を設定する。
広島駅の列車の到着メロディーとして、ひろしま平和の歌やカープの応援歌を流す。
広島駅で広島らしさを感じられるようにする。(具体例: 壁面を利用した平和のイメージの発信)
テレビ局等が所有している映像等のアーカイブをピースツーリズムに活用することの協力を得る。
広島駅を起点に、めいぷる～ぷの特定の便を「めいぷる～ぷピースバス」として新たなコース設定する。ガイドが同乗して平和関連事業などについて説明する。
めいぷる～ぷのルート毎の違いを外国人に分かりやすく発信する。
めいぷる～ぷの広島城バス停で降りた後、広島城への行き方を迷う来訪者が多いので、必要な情報提供をする。
子どもがいる家族に、異文化に触れることができる機会として声を掛け、ホームステイ受入を組織化するシステムをつくる。
飲食業の方々からも来訪者に情報提供していただく。
雁木タクシー、広島城遊覧船、世界遺産航路などについても一体的なPRを行う。

■ピースツーリズム推進に向けての基本的事項

調査・情報収集を行い、基礎情報として活用する。

懇談会意見

市民意識や、広島に来られる外国人旅行者の思いを調査する。

既存のマップ類を調査・調整する。

日本語を理解できない外国人がどのように情報を得ているか調査する。

首都大学東京の渡邊准教授が広島女学院中学・高校の生徒達と一緒に作っている、バーチャルな地図の上に被爆体験を落とし込み、地図にかざすと被爆体験が読めるウェブサイトがあるので、活用する。

アウシュヴィッツ国立博物館の実施している平和への取組を参考にする。

■その他の対応

懇談会意見

ピースツーリズムの推進について、広く市民に知ってもらえるよう、ルート作成後説明会をするなど、情報発信をする。

10月頃までの意見の中で、市において来年度予算に反映できるものは、予算要求する。

第4回ピースツーリズム推進懇談会の 意見交換テーマ

- (1) 「目指す姿の方向性」(案)と「今後の検討の方向性」(案)に係る意見・提案**
- (2) 具体的な検討内容に係る意見・提案**
 - ① 情報発信について**
 - ② 丁寧な案内を提供する環境づくり(ルート設定等)について**
 - ③ 迎える市民の積極的な関与について**
- (3) ピースツーリズム推進に際しての配慮事項や対応が必要な事項**
- (4) その他意見交換**

次回懇談会の日程

12月中旬までに実施予定とし、

後日、事務局から日程調整を行う